

## 2009 年度家族会

### 「京都 保津川くだり」報告

保津川は1606年に豪商・角倉了以（すみのくらりょうい）により開削され、京都と丹波（亀岡）を結ぶ水運として利用されるようになった。それ以前にも丹波の良質な木材が、筏を組んで運ばれていたが、荷船により農産物や燃料（薪炭）などの物資が運搬されるようになったのは、このときからである。観光としての「川下り」の歴史も古く、1895年（明治28年）ごろから始まっている。荷船としての役割は、陸上輸送にとって代わったが、観光としての「川下り」は、今も健在で、世界的にも有名である。なお、角倉了以は、森鷗外の小説で有名な高瀬川を開削したことで知られている。

2009年4月11日（土）、この保津川下りを家族会として実施した。36名の参加があり、そのうち7名が外国人留学生とその家族であった。桜の季節を少し過ぎていたためか、乗船場は、思いのほか混雑しておらず、予約していたこともあるが、到着後すぐに全員が乗船できた。船頭3人：櫂を漕ぐ人、舵をとる人、竿をさす人の連携とユーモアを交えながらの案内は見事で、なるほどと勉強になることもあり、笑いもありの楽しい100分間であった。今回は、晴れの日が続いたため、水量が比較的少なく、急流では船底がごつごつと川底にあたることもしばしばであり、その時には川面が目の前に迫り、迫力いっぱいの川下りであった。峡谷の自然や鉄道橋のコントラストも美しかったが、川べりのところどころに、その昔、下った船を上流まで人の手により引き上げた道の跡や綱の跡が残されており、当時の苦労も偲ばれた。今は下った船はトラックで上流まで引き上げられ、船体もFRP製で軽く作られている。

着船後は、バスの発車時刻まで思い思いに嵯峨野・嵐山を散策した。上流の亀岡ではそうでもなかったが、嵐山の混雑具合は相当なもので、通りをまっすぐに歩けないほどであった。

最後に、お世話になった船頭の皆様に感謝するとともに、保津川の自然と歴史に感謝です。

（記 会務委員 箕浦 宗彦）



着船場でほっと一息



船頭曰く「今日の流れは穏やかだねえ。このまえの台風の時には30分で大阪に着いたよ。」